

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

【 報 告 書 】



☆ 北海道岩見沢農業高校ボランティア部 ☆

☆ 北海道岩見沢緑陵高校ボランティア部 ☆

☆ 北海道岩見沢東高校ボランティア部 ☆

☆ 北海道岩見沢高等養護学校生徒会執行部 ☆

～ 2013 ～

岩見沢



～ 高校生プロジェクトに ご支援いただいた皆様へ ～

「第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト」
実行委員長 鵜飼 摩利亞（北海道岩見沢農業高等学校 3年）

岩見沢市内の高校生が中心となり、復興支援をする「第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト」が無事終了しました。

昨年度の第1回目を取り組んだ岩見沢市内の高校3校（岩見沢農業、岩見沢東、岩見沢緑陵）のボランティア部と今回新たに加わった岩見沢高等養護学校の生徒会執行部とを合わせ市内4校で協力して第2回目がスタートしました。そして、このプロジェクトは、それぞれ役割を決め、各グループが、前年度の経験を生かしながら、創意工夫をし、取り組んできました。最初に取り組んだ支援金のご協力のお願いでは、この取り組みの趣旨を分かりやすく伝えることが難しくとても苦労をしました。大変なこともたくさんありましたが、支援金集めから、商品の決定・仕入までの一連の作業を自分たちで行うことで貴重な経験をすることができました。

今回の販売方法は、メイン販売会のボランティアフェスティバルでの販売と、学校祭や各市内のイベントのミニ販売会と二つの形で行いました。メイン販売会の8月25日ボランティアフェスティバルの日は、あいにくの大雨にもかかわらず、子どもから高齢の方まで、たくさんの方々が足を運んで下さいました。複数の商品を買って下さったお客様がたくさんいたこともあり、販売開始から数時間で売り切れになった商品もありました。商品の選択を行った私たちにとっては、買って下さるお客様を見ていると、とてもうれしい気持ちになりました。また、お客様からは、「昨年も、来たんだよ!」「高校生なのに偉いね!」「がんばってね!」など、たくさんの方々の言葉をかけていただきました。

震災復興の状況や東北の現状などについて、新聞やテレビでの報道が少なくなってきている今、一人でも多くの人に東北のことを知ってもらいたいと考え、東北の方々から提供していただいた写真を、今回は販売会で展示しました。多くの方々に見ていただき「東北を忘れない」というメッセージを伝えることができたと思います。

今回は、2回目のプロジェクトで、まだまだ不慣れなところもありましたが、無事このプロジェクトが成功に終わることができたのは、私たち“高校生プロジェクト実行委員会”だけの力ではなく、プロジェクトを支えていただいた関係者の皆様、支援金にご協力いただいた皆様、そして、商品を買うことで支援していただいた皆様がいって成功することができたのだと思います。本当にありがとうございました。

私たち3年生は、これで最後の活動となりますが、今後も、これまでの経験を生かし、更により復興支援活動を後輩の高校生が続けて行ってくださることを願っています。

最後に、この冊子では、このプロジェクトがどのようなものであったかを分かりやすくまとめてありますので、どうぞご覧ください。

【目次】

- ◆第2回高校生プロジェクトの概要について P1
- ◆組織構成と主な役割、参加生徒一覧 P2
- ◆売上金の使いみちについて P3
- ◆活動支援金（協賛金）にご協力いただいた団体・会合 P3
- ◆第2回高校生プロジェクト販売商品紹介・宣伝チラシ・ポスター . . . P4
- ◆「東北の今」展示パネル（ミニ版） P18
- ◆ボランティアフェスティバル岩見沢メイン販売までの経過 P22
- ◆ボランティアフェスティバル岩見沢メイン販売のスナップ写真 P24
- ◆市内高校生へのメッセージ、高校生アンケート P26
- ◆決算報告書 P30

○第2回高校生プロジェクトの概要について

1. 実施骨子

地元岩見沢でできる次の復興支援を市内の高校に通う生徒が協力し行っていく。

- ① 東北の物産、復興支援商品を買う（仕入れる）ことで、被災地で働く人や住んでいる人などの支援とする。
- ② ①で仕入れた物産を岩見沢市で開催される「第30回ボランティアフェスティバル岩見沢」をメイン会場として販売することで、より多くの市民の方に復興支援に関わっていただく。
- ③ 被災し就学困難になっている高校生、及び、未来の高校生（現小中学生）が安心して学べる環境になるための一助として役立つことを願って、物品の売り上げを「東日本大震災子ども支援ユネスコ協会就学支援奨学金」にあてる。
- ④ 販売と同時に被災地のことを忘れないためにパネル展示「東北の今」を行う。
- ⑤ 以上のことを行っていくための支援金を市民の方にお願ひし、この高校生プロジェクトを援助していただく。

標語「東北を忘れない、買って支援、売って支援」

2. 組織構成

- ① 上記の実施事項を行うことに賛同する市内高校生を中心とした個人・団体で構成する。
- ② 実施準備に当たって、業務を大きく4つ（4大グループ）に分けることとする。この大グループは、5～8名の小グループ（同一学校で構成するチーム）によって構成する。
- ③ 各小グループは、チーム長、副チーム長を決める。チーム長、副チーム長は、チームの役割を掌握し、チーム単位で行うことの中核となる。また、チーム長会議に参加し、プロジェクト全体の進行を確認し、同じ役割の大グループに所属する他のチームと打合せし、具体的な仕事を割り振り確認する。
- ④ 総務は、プロジェクト全体に関わり、計画通り実施できるようチーム長会議の取りまとめ、総務チーム長がプロジェクト実行委員長となる。広報は、総務を助け、そのチーム長はプロジェクト副実行委員長とする。
- ⑤ 生徒への指導、助言に当たっては、岩見沢市社会福祉協議会担当者、及び、各高校団体顧問、プロジェクト賛同者等が連絡、協議のもとに行う。

3. プロジェクト協力機関

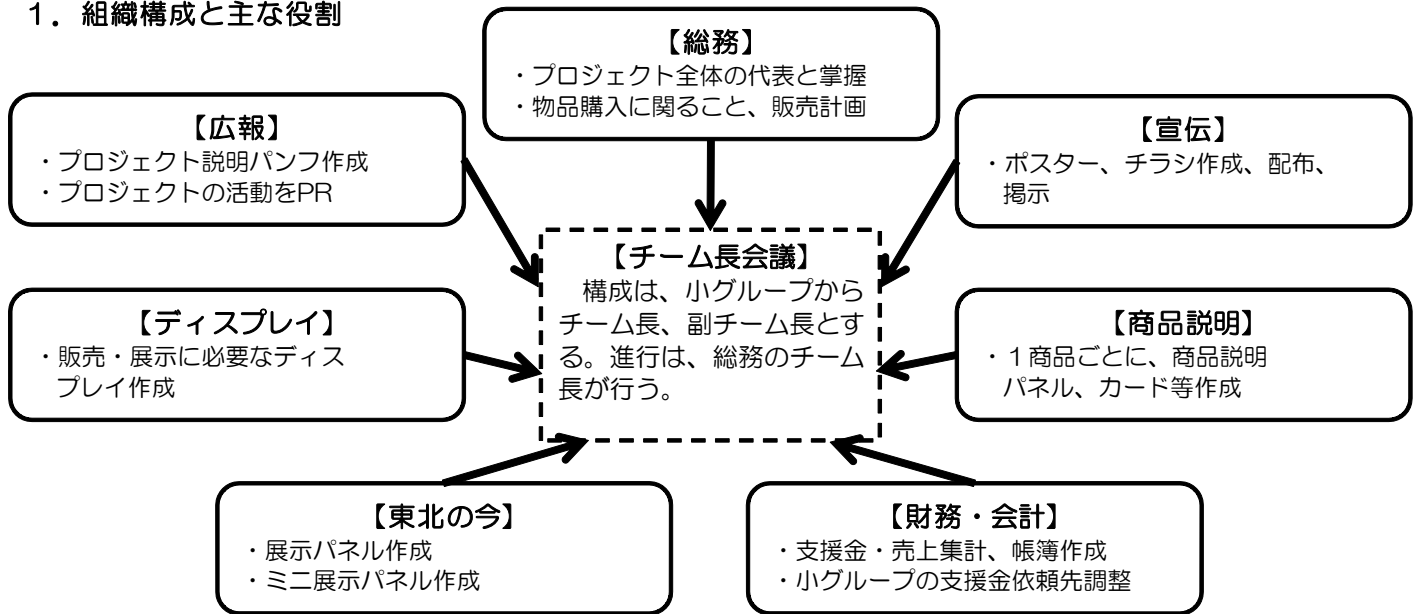
- ・ 高校生プロジェクト協力機関として岩見沢市社会福祉協議会があたる。岩見沢市社会福祉協議会は、高校生ではできない金品管理や公式な他団体への依頼等を行う。

4. 具体的な取り組み

- ① 上記に賛同する高校生のグループごとに販売商品を選択し、選考のもと購入（仕入れ）する。
- ② 東北の物産を購入する（仕入れる）資金を確保するため、1口500円の活動支援金（協賛金）を岩見沢市内の関係機関・団体より募集する。
- ③ このプロジェクトの取組みを周知するため、ポスター、チラシ等を作成する。
- ④ プロジェクト全体の説明パンフレットを作成し、Web、新聞、ラジオ、TV等でプロジェクトの活動をPRする。
- ⑤ 東北の商品仕入先と連携し、1商品ごとに商品説明パネルを作成する。
- ⑥ 東北の復興の現状や現地の方々の想いを岩見沢市民に伝えるため、東北の地元新聞社や社会福祉協議会、復興支援団体等から写真提供いただき、その情報をもとにパネルを作成し、展示する。
- ⑦ 当日販売に先立ち、市内イベント等においてミニ販売会を実施する。

○組織構成と主な役割、参加生徒一覧

1. 組織構成と主な役割



2. 参加生徒一覧

大グループ	担当	小グループ								学校名		
		チーム長	メンバー									
総務・広報	総務	3年	鵜飼 摩利亜	3年	小田嶋 愛美	3年	岩倉 佑紀	3年	長坂 瑛美	3年	木嶋 ちひろ	岩見沢農業
	広報	2年	大矢 樹乃	2年	前田 早葵	2年	深尾 里菜	2年	阿部 香奈絵	2年	藤原 あおい	岩見沢農業
				2年	南原 紗里奈							
3年	新井 優也	3年	川俣 ゆりえ	3年	久保 愛梨	3年	佐藤 菜々美	1年	工藤 江莉佳	岩見沢緑陵		
		1年	高田 美沙樹	1年	西浦 あゆみ	1年	小山内 涼音					
装飾・宣伝	宣伝	3年	福士 雄也	3年	坂上 勇耶	3年	松田 卓弥	3年	澤田 芳光			岩見沢農業
		3年	金山 竜司	3年	木村 舞李	3年	澤田 千明	2年	林 諒太郎	1年	門脇 幸恵	岩見沢緑陵
				1年	蝦名 可織	1年	山田 朋香	1年	星川 美玖			
	3年	木村 雄也	3年	奥田 桂子	3年	田中 結奈	3年	水上 一美	3年	成田 芽久美	岩見沢 高等養護	
			2年	正盛 裕紀	2年	古伯 蒼						
	商品説明	3年	荒田 和美	3年	岩館 まりや	3年	帰山 紗江	3年	置田 梨奈	3年	中山 夏希	岩見沢農業
				1年	瀧本 健太	1年	倉谷 広市	1年	酒井 工	1年	片桐 直人	1年
		1年	玉山 里奈	1年	佐藤 大成							
	2年	田口 友稀	2年	阿部 葵	2年	黒田 奈々子	2年	栗塚 杏梨	2年	有澤 結衣	岩見沢緑陵	
			2年	豊永 愛菜								
ディスプレイ	3年	四十九 実里	3年	村上 文瑚	3年	青木 美華	3年	小林 果鈴	3年	佐藤 李香	岩見沢東	
			3年	高橋 七海	2年	岩崎 瑞生	1年	相川 奈央				
	2年	佐藤 結香	2年	小倉 明日香	2年	石井 すみれ	2年	塚谷 一馬	1年	笹木 沙鈴	岩見沢緑陵	
1年			池田 萌絵	1年	林 佑果	1年	鈴木 莉紗					
展示	東北の今	3年	鈴木 健太	3年	吉田 醇斗	3年	木村 祐貴	3年	中西 亮太	3年	大柳 貴	岩見沢農業
				2年	櫻田 和人	2年	佐藤 滉大	2年	綾川 莉央	2年	中村 愛	2年
		2年	菊池 玖瑠美			2年	中村 修二					
	1年	笹森 敦暉	1年	柳原 涼花	1年	庄野 美咲	1年	西野 絹太郎	1年	須藤 美佑	岩見沢農業	
			1年	楠 優奈	1年	井上 綺茄	1年	岩田 瑞穂	1年	中弥 里奈	岩見沢農業	
財務・会計	財務・会計	2年	横島 和哉	2年	加藤 知真	2年	菅野 大河	2年	太田 由唯	2年	菅原 彩花	岩見沢緑陵
				2年	鈴木 香澄	2年	林 直政	2年	藤原 千南	2年	石川 和樹	岩見沢緑陵
		1年	山本 千絵	1年	朝山 苑香	1年	矢野 晶	1年	斎藤 竜	1年	窪田 茉奈華	岩見沢農業
				1年	櫻田 もも	1年	土屋 大知	1年	寒河江 太一			

○売上金の使いみちについて

昨年実施しました「第1回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト」に引き続き、販売による売り上げについては、被災し就学困難になっている高校生、及び、未来の高校生（現小中学生）が安心して学べる環境になるための一助として役立つことを願って、全額「東日本大震災子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金」として役立ててもらうことにしました。

（この奨学金に関しては以下のユネスコ協会ホームページの抜粋で趣旨をご理解下さい。）

「ユネスコ協会就学支援奨学金」は、東日本大震災で家を失ったり、ご両親が仕事を失ったりと、経済的な理由から就学が困難になった子どもたちを支援するものです。原則として、ひとり月2万円を3年間給付します。

2012年5月31日現在、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市、南三陸町、岩手県大槌町、陸前高田市において、計1,534名の児童・生徒へ奨学金の給付が決まりました。

本奨学金は、ご賛同いただきました各種企業・団体・個人の皆さまからのご寄付によって成り立っています。ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

震災の被害による経済的な理由で就学が困難になっている小・中学生は4万4千人にのぼるといわれており、まだまだ支援が必要とされています。引き続き、みなさまのご協力をお願い致します。

※ 日本ユネスコ協会連盟によると、子ども就学支援奨学金の奨学生は、2013年7月現在1,847名となっております。

○活動支援金（協賛金）にご協力いただいた団体・会合

ボランティア活動者交流会	岩見沢市役所	岩見沢市教育委員会
岩見沢地区消防事務組合	岩見沢商工会議所青年部	岩見沢青年会議所
空知信用金庫	岩見沢警察署親睦会	みその保育園
岩見沢市地域包括支援センター	介護老人保健施設ゆあみーる	岩見沢脳神経外科
人形劇フェスティバル	岩見沢農業高等学校	岩見沢緑陵高等学校
岩見沢東高等学校	岩見沢高等養護学校	岩見沢市社会福祉協議会

復興
支援

—高校生プロジェクト—

東北物産販売

東北から仕入れた物産を販売します。売り上げは被災で
就学困難になった子供達の為に役立てます。

「東北を忘れない買って支援、売って支援」

＜内容＞

私たち高校生は、東北の物産を仕入れ、
その商品をボランティアフェスティバルなどで
販売し、その売り上げ金を「東日本震災で
支援のレスポ協会就学支援奨学金」
にあてます。

＜参加校＞

岩見沢農業高等学校 ボランティア部
岩見沢緑陵高等学校 ボランティア部
岩見沢東高等学校 ボランティア部
岩見沢高等看護学校 生徒会執行部

Illustrated by Terumi Kanabashira

問合せ先：岩見沢市社会福祉協議会 (0126) 22-2960

第 2 回

復興支援 東北の物産販売 高校生プロジェクト

販売商品について

1. にこまるクッキー



福島県

チームむかご

350円

商品について

にこまるクッキーは中にクルミ、クランベリーが入っていて素朴なおいしいクッキーです。ぶたちゃんが入っていたらラッキー！これは福島県会津美里町限定です。

こんな思いで作っています。

被災地への食料物資は安定してきたという情報を得て、これからは被災地の方々にクッキー作りをしていただき、それを非被災地で売ることで、わずかでも作っていただいた方々に仕事を、利益を、還元することができないかと思いついています。手を動かすこと、力を合わせて何かを作ること、みんなで集まっておしゃべりをする事自体も、被災者のみなさんの心を少しでもほぐし、新しい暮らしへの活力を生み出す源になるといいな、と思っています。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

このクッキーのスマイルのようにはやくみんなが笑顔で暮らせるよう、一緒に支援していただければ嬉しいです。震災から2年・・・東北のために何かをしたいと思ってくださる高校生の気持ちが嬉しいです。感謝しています。

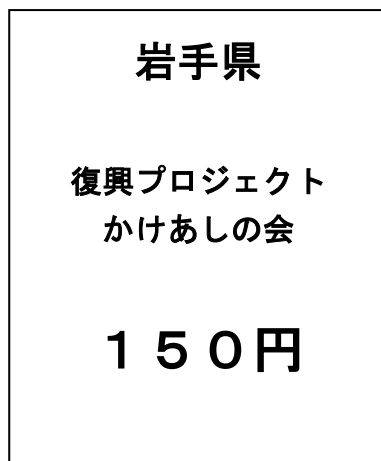
購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

このクッキーを食べて岩見沢市の市民の方々にも笑顔になって頂ければとおもい、ひとつひとつ心を込めて作っています。福島でこれからも生きていきます。

Etc.&追伸

チームむかごのにこまるプロジェクトでは新商品がぞくぞく出来ています！！ぜひネットで検索して頂いて気になる商品がございましたらご注文ください

2. 塩サイダー



商品について

岩手県宮古市の本州最東端の重茂半島沖より汲み上げた海水から作った塩を使っています。昔懐かしい味に仕上がりました。

塩分濃度3%。外でのお仕事、運動の合間に塩分と糖分を一緒に補給できます。熱中症対策にも好適です。

こんな思いで作っています

「かけあしの会」では、宮古市の仮設住宅の被災者への僅かながらも仕事を提供し、収入を得られ働く喜び、生きがいへと繋がり希望を抱けるように、被災者へ寄り添った愛のある経済支援を目的としています。まさに「駆け足」のごとく、実感が湧いてくる活動をしてまいります。利益を活動資金にしています。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

私達の地域は「陸の孤島」と言われています。すでに2000人以上の方が移転して、宮古を離れました。過疎化、高齢化に拍車がかかりました地域において、子供達の支援は助かります。

2回目と聞きましたが、細く長く伝え続けていただけますように心よりお願いいたします。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

被災、原発、過疎化、高齢化、消費税、TPPと先の真っ暗な状態ですが、遠く離れた皆さんのお力と忘れない、伝える、続ける、見捨てないそんな気持ちを添えて是非購入をお願いいたします。

できる人が、出来るときに、出来ることで十分です。日本の未来にも関わる問題だと思います。一緒に考えてください。そして今は、買い支えてください。いつか、恩返しは必ずします。

Etc. & 追伸

毎月一品新商品発売して、震災のことを忘れられないように活動しています。始まった、つながりと信じて嬉しく思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

3. 塩麴



岩手県

佐々長醸造株式会社

450円

商品について

塩麴は岩手産の米と、瀬戸内海産の塩を使用した発酵調味料です。食材の旨みを引き出し、美味しさが引き立ちます。佐々長醸造（株）は岩手産素材を中心に、職人が、木桶を使用し昔ながらの製法でこだわりの味噌・醤油・つゆを製造しております。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生について

いろんなことを知ってほしいと思います。
いまだに復旧・復興の途中です。助けに来てくれたことを忘れてはいけません。できる範囲の中での少しの思い入れと、記憶を残してほしいです。
このプロジェクトが有意義になることを期待しています。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

復旧・復興に甘えることなく、自分たちでしかできないものを守り、造り出していきたいと思います。今後も岩手県をよろしく願います。このような事柄から交流が増えるといいですね。

4. 天使のしょうゆ



岩手県

ヤマニ醤油株式会社
(佐々長醸造株式会社)

650円

商品について

「天使のしょうゆ」のデザインは、ヤマニのロゴを頭に頂くしょうゆ天使が陸前高田市の海を渡り、笑顔でしょうゆを配達する構図で、「温かい食卓の団らんを直接届けよう」というヤマニの理念がこめられています。

こだわりのおいしさ

天使のしょうゆは、素材である井戸水と削り節にこだわり作られています。井戸水には早池峰霊水、削り節には気仙沼のかつおとこだわられています。そのため、柔らかい口当たりでまろやかな味わいになっています。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

若い方々に、この様な事に目を向けてもらい、復興の力になってくれることに大変感謝しています。人と人とのつながりを大切に、そしてこういう方々に会うたびに、自分の努力していたことは無駄ではなかったと思います。皆さんも、今いる仲間やこれから出会うであろう沢山の人の出会いを、大切にしていってほしいです。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

ヤマニ醤油の売り上げの一部は、陸前高田の復興と明るい未来のために、ささやかながら協力させていただいています。三陸の甘みがある醤油は、北海道の豊富な海の幸にピッタリの味です。ぜひ、お刺身につけてご賞味してください。

Etc. & 追伸

「天使のしょうゆ」は岩手県三陸特有の甘口タイプのお醤油です。震災で、蔵が流されたために、以前の醤油の味を復元することに苦労しました。でも、自分の手で、あの味を復活させて、待っているお客様に届けたいという思いで頑張った。縁あって、ラベルのデザインをアンパンマン原作者の「やなせたかし先生」に手がけて頂いたことがとてもありがたかった。震災から2年以上が経ち、風化している現実があります。被災地はどんどん人が減り、この先10年20年後の事が不安になることもあります。こうして関心を持って頂けることが、たくさんある被災地と被災している方々の力になると思います。

5. 気仙沼ふかひれ濃縮スープ(広東風)



岩手県

株式会社阿部長商店

300円

商品について

この気仙沼ふかひれ濃縮スープは、阿部長グループのみなさんが「気仙沼と言えばふかひれ。地域ブランドを絶やすわけにはいかない」という信念のもとに、工場の復旧作業を急ぎ、その渦中で生まれた商品です。

阿部長商店が復興の足掛かりとして作りました。

気仙沼ホテル観洋のレストランシェフなど延べ50人の開発スタッフが一致団結し「気仙沼ブランドの復興を引っていきたい」との思いを込め、商品化にこぎ着けました。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

今回、北海道岩見沢市の若い高校生方の復興支援物産販売ということで誠に感謝いたします。東日本大震災子ども支援ということで大変ありがとうございます。未来の高校生への夢の為頑張ってください。本当にありがとうございます。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

震災後、各方面いろいろな方々から様々な復興支援を頂き誠に感謝しております。しかし、当地方は復興どころか未だ復旧途中といった所が現状です。岩見沢市の方々の御支援にこたえるべく、私共も気仙沼の復活に向け頑張ります。ありがとうございました。

Etc. & 追伸

気仙沼はサメの水場日本一です。気仙沼といえば「ふかひれ」。「地域ブランドを絶やすわけにはいかない」との思いから震災後に完成、販売となった当社自慢のフカヒレスープです。気仙沼から食で元気を届けます。

6. ずんだ生ジャム



宮城県

PALETTE

500円

商品について

宮城の伝統食「ずんだ」がよりおいしく手軽に楽しめるジャムです。加熱によって失われがちなビタミン類や食物繊維などの栄養成分を破壊しないよう加工されています。

安心して食べてもらいたい

安心して食べてもらえるジャムになるようにできるかぎり農業を使わずに手塩に掛けられて育てられている枝豆が使われています。また、栄養素や風味を損なわずに作られています。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

ボランティアの実地、支援、本当にありがたく思っております。このようなプロジェクトを通じ社会貢献する事、本当に素晴らしいと思います。このプロジェクトに取り組む高校生の皆様にとっても、身のある活動になることを願っております。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

震災から2年、今やるべき事、自分たちが取り組む事をまっすぐに感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思っております。

Etc. & 追伸

宮城県栗原市地示の契約農場で減農薬栽培し、手塩にかけ育てた枝豆から作った安心して安全なずんだジャムです。空気に触れさせず出来るだけ熱を加えないようにし、素材そのものの風味、フレッシュさを生かしています。自然からいただいた美味しさで笑顔を咲かせ、ふれあいの輪を広げていきたいと思っています。

7. いかせんべい



岩手県

有限会社 すがた

400円

商品について

元祖「菅田いかせんべい」は自分で四代目、創業より百三十年余りとなります。噛めば噛むほど口に広がるイカの風味と味わいです。

こんな思いで作っています

いかせんべいの原風景には、大漁で、賑わう、当時の宮古があります。震災後、瓦礫の中から、代々の一枚型が見つかり再興の一步を決意したことをおぼえています。どうぞご賞味ください。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

とても熱い熱意を感じます。高校生らしいパワフルさと、自由な発想で、物産販売プロジェクトが必ずや成功することを祈っています。そして今回の物産販売プロジェクトが、高校生活の中での貴重な体験となる様、微力ながら応援しています。

購入した購入を考えている岩見沢の方々に

弊社の所在地である、岩手県宮古市も震災の大きな被害からまだまだ復興できていないと言うのが現状です。しかし、今回の物産展が改めて被災地のことを考えていただけるきっかけが生まれれば良いと思います。震災のことや、被災地のことは、徐々に風化されつつあると言うことを耳にしますが、岩見沢市民の皆様には、今の被災地の現実も含め忘れないでいただきたいです。そして、岩手や宮古のみならず、被災地全体をこれからもご支援いただければ幸いです。そして復興を願い、商品をお手に取ってくださった方に感謝します。

Etc. & 追伸

もし、機会がありましたら、被災地を訪れ、どうぞ弊社にもお立ち寄りください。

8. 牛たんジャーキー



宮城県

喜助
(有限会社マイティーク
葉重)

400円

商品について

喜助の「牛たんジャーキー」は、牛たん焼きに使わない赤みの部分だけを使って、醤油ベースのオリジナルタレ味に漬け込みじっくりと乾燥させて作ってます。香ばしい味とジャーキー特有の噛めば噛むほど味がでるのが特徴です。

こんな思いで作っています

喜助という飲食店で、たん焼きに使うたん元の部分が多く消費され、たん先の部分が残ってありました。まだ店舗数が少ないうちは「たんとうふの具」などひき肉にまわしてありましたが、量的に拡大していくにつれて新メニューを作らなければならないとの思いでこの商品を考案しました。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

今回のプロジェクトの趣旨および実施するための取り組みに際し敬意と感謝を表します。同じ日本人として東日本大震災を他人事と思わずこの大きな災害にどのようにしたら「復興支援」が出来るのか真剣に考え、アクションを起こした行動力に勇気をいただきました。

購入した購入を考えている岩見沢の方々に

「ありがとうございます」の一言に尽きます。我々被災した宮城県民・企業も皆様方の復興支援と言う熱い思いをいただき頑張っまいると思います。

Etc. & 追伸

宮城県も「牛たん」「笹かまぼこ」「ふかひれ」「ずんだもち」などの食べ物や「七夕祭り」「定禅寺ジャズフェスタ」「あおば祭り」などのイベントがございますので、機会があれば是非お越しく下さい。最後に今回は本当にありがとうございました。

9. 切落としショルダーベーコン



岩手県

株式会社
岩手畜産流通センター

250円

商品について

豚の肩肉を使用した、切落としタイプのショルダーベーコンです。脂身が少ない為、ピザのトッピングにしたり、野菜炒めに加えるなどさまざまな料理に使用できます。切落としのため切る手間が省け、料理の効率性が上がる商品になっています。ピザトーストや野菜炒め、スープなどに幅広くお使いいただけます。

作っている方々からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生へ

今回当社の「切落としショルダーベーコン」を復興支援プロジェクトの販売アイテムに選んでいただきありがとうございます。時間が経過することで復興への取り組みが少なくなっていく中、岩手と離れた土地で震災を忘れない活動をしていただくことは、復興を目指す被災地の支えとなっております。被災した岩手県民としましては大変感謝しております。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

当社は岩手県の内陸にあるため、津波の被害はありませんでしたが、エネルギー関係の供給がなく、地震発生から2週間ほど工場を稼働させることが出来ませんでした。本格的に商品をスーパーなどに供給できたのは、地震発生から1ヵ月後でした。（当商品も含む）今回のように被災地の商品を購入し、食を通じて震災を忘れない活動をしていただくことは、復興を目指す被災地の支えとなっています。

Etc.&追伸

被災地である東北を忘れない活動をしていただき、ありがとうございます。当日は何う事が出来ませんが、商品の販売の程、よろしく願います。

10. 伊達の恵ゼリー



福島県

J A だてみらい

600円

商品について

J A 伊達みらいと伊達市の中学生の共同開発によるゼリーです。
伊達地域特産の桃、柿、リンゴの3種類の果汁100%使用。
果実本来の味が楽しめる本格派の仕上がりです。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わっている高校生に

あれから2年が過ぎてガレキは片付き、ようやくスタートラインが見えてきました。被災者の手を引き、背中を押してくれた全国の皆様に感謝しています。しかし、震災があったという事が記憶から薄れてきていることも事実です。頭の片隅にでも良いので覚えていただければ幸いです。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々

今回の物産展が改めて被災地のことを考えていただけるきっかけが生まれれば良いと思います。震災のことや、被災地ことは、徐々に風化されつつあると言うことを耳にしますが、岩見沢市民の皆様には、今の被災地の現実も含め忘れないでいただきたいです。

Etc&追伸

管内の農産物は東京電力福島第一原発事故に伴い、出荷停止や価格の下落などに陥っており、地元農産物の安全性やおいしさをアピールしようと企画しました。被災地の現場が紹介できるプロジェクト展開を希望します。福島県にも、安全な農産物が非常に多く生産されているされている事、市場に出まわっている商品はすべて安全性が確認されている事を知ってほしいです。

11. やわらかきなこねじり



福島県

渋谷レックス

350円

商品について

きなこの香りが懐かしい、昔ながらのお菓子です。

きなこを砂糖を混ぜ合わせ、水あめを絡めてやわらかい食感を出しています。最後のねじりの一手間まで、職人さんが全て手作業で作っています。

甘すぎず、お茶うけにもぴったり。

やさしくねじったきなこねじり。きなこの風味をお楽しみください。

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生について

復興支援ということで、ここ福島県にある企業としては、本当にうれしい限りです。自分たちの故郷である福島でのことは、自分たちで解決していかなければならないという気持ちを持っていながらも、時としてこうした支援を預けることに、甘えてしまいそうになる弱い気持ちも持っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。プロジェクトに取り組もうという、その気持ちに感謝です。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

全国では、ニュースとして取り上げられることも少なくなってきた今でも、まだまだ震災の傷跡は癒えきらず、原発の収束もままなりません。でも、福島にある私たち企業は、ここ福島で「何ができるのか」「何をすべきなのか」と前向きに事業活動をしています。お買い上げいただき、お菓子を楽しんでいただき、福島にこんな会社があるのだなと、知っていただくことが何よりです。これからも、前向きにがんばってまいります。

Etc. & 追伸

今回の機会で、「福島にこんな会社があるのだな」と少しでも知って頂くことができれば幸いです。ぜひ、昔懐かしい、お菓子をご賞味いただいて、リラックスした時間をお楽しみください。

12. さんまかりんとう



宮城県

女川町観光協会

350円

商品について

クッキーみたいな食感が特徴です。

こんな思いで作っています

東日本大震災により、かりんとう工場は流されましたが、ガレキの中から見つかった生地を混ぜる機械を修理して、鳥取県で工場を再開。今年7月からは女川町の新工場で生産開始予定です

作っている方からのメッセージ

このプロジェクトに関わる高校生に

あれから2年が過ぎてガレキは片付き、ようやくスタートラインが見えてきました。被災者の手を引き、背中を押してくれた全国の皆様に感謝しています。しかし、震災があったという事が記憶から薄れてきていることも事実です。このように取り上げていただき、もう一度考えてもらう機会をありがとうございます。

購入した、購入を考えている岩見沢の方々に

現在の女川町じゃ何もない更地の町です。人口も半分近くまで減っています。でも、この町をなんとかしたいという思いは消えません。残った町民は必死に進んでます。被災者は卒業したと思っています。支援はもう要りません。町の産品を買ってもらうことが町の経済を回す上で最高の支援です。

Etc. & 追伸

「女川は流されたのではない 新しい女川に生まれ変わるんだ
人々は負けずに待ち続ける 新しい女川にすむ喜びを感じるために」
震災後に小学生の作った詩です。私も4畳半2間の仮設住宅に妻と高3の娘と中3の息子と暮らしていますが、すばらしい町になると信じてここで暮らしていきます。

第2回 東北の物産販売
高校生プロジェクト
東北の物産販売会

★日時:平成 25 年 7 月 14 日(日)

★場所:緑が丘ワッショイ祭り(緑が丘連合会館)

★時間:10 時 00 分~15 時 00 分

東北の物産品を仕入れてその商品を販売し、売上金を被災して就学困難な子どもたちの支援金として寄付させていただきます。

買うことが東北の支援になるプロジェクトです。誰でも気軽に参加できる東北支援なので、ぜひ来てください!

共に「東北を忘れない、買って支援、売って支援」を合言葉に東北を支援していきましょう。

商品項目

◆塩麴	(岩手 450円)
◆塩サイダー	(岩手 150円)
◆牛たんジャーキー	(宮城 400円)
◆伊達の恵みゼリー	(福島 600円)



©独眼電ねこまさむね



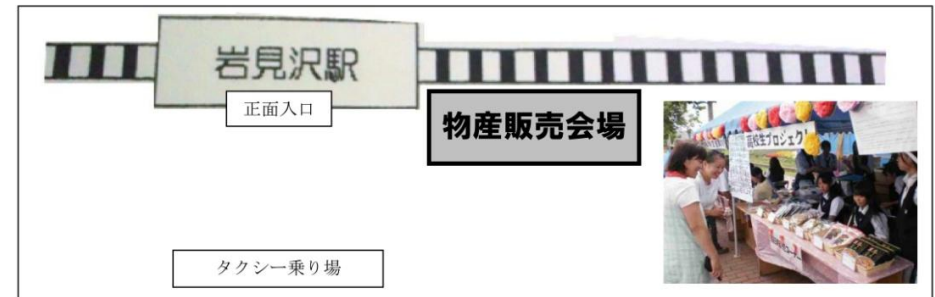
米沢市直江兼続
マスコットキャラクター

第2回 東北の物産販売
高校生プロジェクト

♪ 第30回ボランティアフェスティバル岩見沢
(岩見沢駅東市民広場公園)

♪ 8月25日(日) 10:00~15:00

どうぼくちほう いっしょ しえん
~ 東北地方を一緒に支援してみませんか? ~
これは東北地方の物産の売上を東北で被災されている子どもたちのために役立てようというものです。物産を買うことが支援につながります。
8月25日(日)ボランティアフェスティバルにぜひ気軽にお越しください。



福島県浪江町復興支援パネル

浪江町とは

日本の福島県浜通り北部にある町。双葉郡(1896年以前は標葉郡)に属する。町内東部の請戸漁港は、県内最東端にあたる。2011年(平成23年)3月11日、東日本大震災で被災。被害の一つとして発生した福島第一原子力発電所事故の影響を受けて、同月15日以降、仮役場が同県内の二本松市に設置され、多くの住民が移動・避難した(避難民と避難所は他にも散在)。

浪江町のシンボル

町の木・花・鳥



- 松 -



- コスモス -



- かもめ -



福島県、浪江町の施設です。
津波と地震によって施設がぐちゃぐちゃになってしまいました。



福島県、浪江町の住宅街です。
養豚場から脱走して家畜が野放しになっています。



福島県、浪江町の防波堤です。
津波によって漁船やトラックが打ち上げられ、回収作業に時間がかかっています。



福島県、浪江町の防波堤です。
津波によって漁船が打ち上げられています。

3がつ11にちをわすれないためにセンター

センターについて

市民、専門家、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録していくこのプラットフォームとなるこのセンターでは映像、写真、音声、テキストなどさまざまなメディアを通じ、情報共有、復興推進に努めるとともに、収録されたデータを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として記録保存しています。

石巻市八幡町のカフェギャラリー

滞在二ヶ月の記録

宮城県石巻町にあるカフェギャラリー「川べいの散歩道」に泥拭きのボランティアで訪れた壁画家の佐藤さん。津波によって壊された建物の壁を漆喰で塗り、修復しました。
二ヶ月間の滞在中に撮影した街の記録です。



2011年9月9日 宮城県石巻市八幡町のアパート
今は取り壊されてしまいました



2011年9月23日 宮城県石巻市八幡町2丁目
道路も容赦なく冠水しています。毎日夕方になると通れない道ができていました



2011年9月9日 宮城県石巻市八幡町の元家具屋
建物の面影はもうありません



2011年9月23日 宮城県石巻市八幡町の河川
すぐ海に通じている大きな川は、フェンスを乗り越え岸のぎりぎりまで迫っていました

大槌の宝箱

大槌みらい新聞について

東北に大きな被害をもたらした東日本大震災。大槌町（岩手県）は津波により地域メディアも失いました。知られなければ、支援や人も少なくなり、忘れ去られてしまいます。

大槌みらい新聞は、復興への歩み、地域の出来事、人々の思いを記録し、発信することで復興を支えています。人々から生まれる希望を照らす灯火として、未来のために大槌の今日を記録しています。



大槌に生まれてきてくれて、ありがとう



赤浜で生まれ、赤浜で育った私。自然に恵まれた赤浜の景色が大好きです。今までガレキが残ってるけど赤浜の綺麗な景色が戻ってくる事を願ってます。

「大槌の宝箱」について

大槌みらい新聞は、2013年の3月に「私の宝物」をテーマとした写真展を大槌と東京・横浜で開催しました。

仲間や友達の笑顔、仮設住宅に咲いた花々。カメラのファインダーを通して、前に進もうとする大槌の「今」が溢れています。

「私の宝物」が詰まった写真展の一部を紹介します。コメントも見逃さずに見てください。



震災直後、全て流され残されたのが車と車の中にあつたデジカメ。その日から家族を探しながらも記録として無我夢中でカメラにおさめる毎日が始まりました。この写真集におさめられた風景を後世に伝えて行けたらと思います。この災害を決して忘れてはならないと思っています。



常日頃から誰かの為に必要とされる人になりたいと考えています。仮設集会所に手作りの作品を飾る事でみんなの気持ちが癒されるならと、季節ごとに作品を飾っています。作品を見るみんなの笑顔が私の励みでもあり喜びです。これからも作品をつくり続けて行きたいと思っています。

福島県新地町

福島県新地町とは、
福島県浜通りの最北、かつ相馬郡の最北にあり、南北に貫く国道6号が町の主要な道路になっている。

新地町DATA

面積 46.35km²

(東西7.2km 南北6.5km)

人口 8,172人

平成23年3月1日現在

福島県現住人口調査

地震によるり災の内訳は、
全壊6世帯、大規模半壊8世帯、半壊38世帯。(現在も精査中のため変更となる場合がある)

家屋を流失した被災者だけでなく、電柱の倒壊、上下水道管の破損などにより、電気水道などのライフラインが不通となった方も避難。その数は一時1,500人を超えた。親戚、知人宅に避難した方を含めれば、避難者数はさらに多い。



行方不明者の捜索を第一に、海水が引かない水田の中やがれきが散乱するなかを活動した。ぬかるみに足をとられながらも、手作業でがれきをかき分け前へ進んだ。家屋や倒木などの巨大な流出物などは、重機で撤去。活動に伴い発生するがれきの撤去は、町内の建設業関係者の協力をいただき、ダンプ等で運搬した

○第2回高校生プロジェクトこれまでの経過について

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト

北海道岩見沢市



○どんな活動か

- ① 東北の物産、復興支援商品を買う（仕入れる）ことで、被災地で働く人や住んでいる人などを支援していきます。
- ② ①で仕入れた物産を「ボランティアフェスティバル」をメインとして市内で販売することでより多くの市民の方に、復興支援に関わっていただきます。
- ③ 被災し修学が困難になっている高校生、及び、未来の高校生（現小中学生）が安心して学べる環境になるための一助として役立つことを願って物産の売り上げを「東日本大震災子ども支援ユニesco協会修学支援奨学金」にあてます。
- ④ 販売と同時に被災地のことを忘れないために、展示「東北の今」を行っていきます。
- ⑤ 以上のことを行っていくための支援金を市民の方にお願ひし、このプロジェクトを援助していただきます。

◆岩見沢市内4校で実施(2013年)

- ・北海道岩見沢農業高等学校ボランティア部
- ・北海道岩見沢市立緑陵高等学校ボランティア部
- ・北海道岩見沢東高等学校ボランティア部
- ・北海道岩見沢高等養護学校生徒会執行部

計104名で取り組む。



集合写真

◆活動支援金のお願い

- ① 1口500円で、主に東北の物産の購入資金に
- ② 参加協力校4校が、ボランティア活動でつながりのある団体にお願ひ
(市役所・警察署・消防署・教育委員会・空知信用金庫・商工会議所青年部・青年会議所・老健施設・保育園・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ボランティア交流会など)



準備作業



ボランティア交流会で呼びかけ

◆東北の生産者へのお願ひ

- ① プロジェクトの趣旨説明
 - ② 物産の仕入れのお願ひ
 - ③ 販売に当たって岩見沢の市民と高校生へのメッセージの依頼
- ※生産者から商品購入者に向けたメッセージ



仕入れ交渉

◆販売商品(12商品)

- にこまるクッキー (福島県会津美里町) ●塩サイダー (岩手県宮古市) ●塩麴 (岩手県花巻市)
- 天使のしょうゆ (岩手県陸前高田市) ●気仙沼ふかひれ濃縮スープ (広東風) (宮城県気仙沼市)
- ずんだ生ジャム (宮城県栗原市) ●いかせんべい (岩手県宮古市) ●牛たんジャーキー (宮城県仙台市)
- 切落しショルダーベーコン (岩手県紫波町) ●伊達の恵みゼリー (福島県伊達市) ●さんまかりんとう (宮城県女川町)
- やわらかきなこねじり (福島県福島市)



◆東北の今

- ① 東北の復興の現状や現地の方々の想いを岩見沢市民に伝えるため、東北から写真提供いただき、その情報をもとにパネル展示
- (3がつ11にちをわすれないためにセンター、大槌みらい新聞、福島県浪江町、福島県新地町)



展示パネル作成

◆販売に向けた準備

- ① パンフレットの作成
- ② 宣伝のためのポスター作成、チラシ配布
- ③ 販売ブースのディスプレイ作成
- ④ 商品説明カタログの作成
- ⑤ 私たちから商品購入者へのメッセージ作成



メッセージカード作成



ディスプレイ作成



商品説明カタログ作成



パンフレット作成

◆ミニ販売会の実施

①ボランティアフェスティバル岩見沢での販売に先立って、ミニ販売会を各学校校祭、市内イベントにて実施。

(農業高校学校祭、緑陵高校学校祭、東高校学校祭、高等養護学校学校祭、緑が丘地区ワッショイ祭り、ボランティア愛ランド、高齢者福祉センターふれあい祭り)



7/6 岩見沢東高校学校祭



7/7 ボランティア愛ランド北海道 2013in ゆうばり



7/14 緑が丘地区ワッショイ祭り



7/13 岩見沢農業高校学校祭



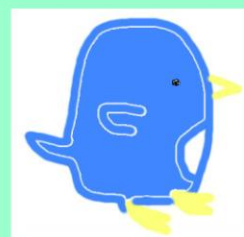
7/18,19 岩見沢緑陵高校学校祭



7/20 岩見沢高等養護学校学校祭



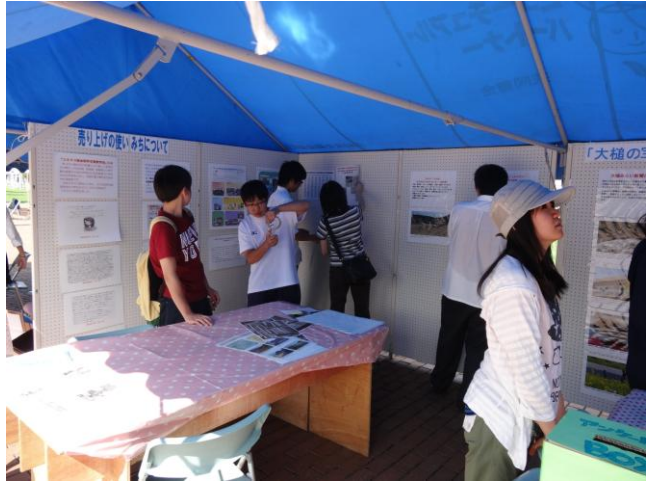
8/3 高齢者福祉センターふれあい祭り



ミニ販売会での売り上げ

248,350円

○ボランティアフェスティバル岩見沢メイン販売のスナップ写真





第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト 市内高校生へのメッセージ（抜粋）

- ◆プロジェクトに、携わられている高校生のみなさんおつかれ様です。どんどん若い方達が、こう言うプロジェクトを盛り上げてください！！でも…各ブースに立つ場合は、もっと笑顔で立っているともっともっと人が来てくれますよ～ 沢山これからも協力してあげてください！！がんばれ
（女性 主婦 44歳）
- ◆高校生のみなさんが社会に目を向けることはとても立派なことだと思います。自分が高校生の時は社会に目を向けて行動することは考えられなかった事でした。みなさんを見習いたいと思います。がんばって下さい（女性 自営業 66歳）
- ◆復興支援のプロジェクト、昨年はボランティアフェスティバルの際に忙しく見られなかったのですが、今年は福島の「にこまるクッキー」を買うことができました。素晴らしい取り組みだと思います。永く続けられますよう、頑張ってください！！（女性 主婦 64歳）
- ◆がんばっている学生の姿に感動！！これからも明るい笑顔でがんばってください！！（福祉職員）
- ◆雨の中頑張っていますね！雨の中大変だと思いますが、そのがんばりはちゃんと来ているお客さんに届いていると思います。これからも頑張れ！
- ◆未来の東北を築いていくのは皆さんです。苦勞が多いことと思いますが、しっかり勉強して皆さんが元気に成長することを心から祈っています。（男性 50代）
- ◆雨の中、皆さんよくがんばっていますね。来年もこの取り組みが続いて、広がってほしいと思います。（男性 会社員）
- ◆がんばれ！たくさんの高校生が力を合わせる活動すごい！！この体験を大切に！！
（女性 公務員）
- ◆高校生の時から、ボランティアに参加できるという事はとても良い経験になり、社会に出てからもその経験は力にもなるし、宝物になると思います。私の時代にはなかったような事なので皆さん頑張ってください！！（女性 60歳）
- ◆初めて見学しましたが、たくさんの方がかかわっているので感心しました。私の孫も岩農にいて参加しています。がんばってほしいです。雨の中ご苦勞様です。
- ◆私も気仙沼のボランティアや、各地の被災地をみてきました。大槌町では高校生の女性が写真で町の笑顔をとりもどしたいとがんばっていました。完全に復興がされるまで、みんなで力をあわせてがんばりましょう。このプロジェクトをさらに発展することを願っています。
- ◆Thank you for the サイダー！Have a great day
- ◆今君たちがやっていることは、種まきです。なかなか目に見えてくるものがすぐには現れないけど、必ず大きな花になります。一步一步その花を広げていく君たちの活動に敬意を表します。
- ◆私も高校生の時にボランティアをしていました。突然、家族がバラバラに住む所も変わってしまった。東北の方たち、岩見沢も南町が水害になったりしました。（私たちが中学の頃、美唄、岩見沢も水害になりに土砂崩れなど起きました。）普通の幸せに感謝して暮らしています。（女性 主婦）
- ◆高校生でボランティア、りっぱです。すごいです。皆さんの力がこれからの日本を造っていくのかな！是非がんばってください。（女性 主婦 55歳）
- ◆支援活動、ボランティア活動に携わる心がとても素晴らしいと思います。これからもぜひ一緒に続けていきましょう。みんな可愛すぎです♡（会社員）
- ◆自分の周囲の小さな世界から1歩2歩と踏み出す活動はとても貴重な経験ですね。そして私達大人も刺激されます。（女性 教員 50代）

- ◆「人間はいつか必ず死にます」と、若い人は思っていないでしょうね。自分本位で生きてはいないでしょうか？・・・そんなとき、ボランティア、支えあうことの大切さを体験し、身につけることの大切さで一生の宝になることでしょう・・・私も実行します。(男性 70歳)
- ◆学校関係なく学生さんのやさしい気持ちと復興に応援されている姿を拝見して心が温まる思いがします。頑張ってくださいね。少しでも力になればなと心から応援してます。
(女性 主婦 58歳)
- ◆昨年も今年も皆さんの頑張っている姿を見て、とても喜ばしく思います。被災地の方々も皆さんの応援の力で一歩先を見て進むことが出来る事でしょう。これからも皆さんのやさしい気持ちに期待をします。(女性 70代)
- ◆世の中に積極的に関わって行く事は、今後皆さんの大きな礎となると思います。精一杯、頑張ってください！！(男性 社会人)
- ◆やらされるのではなく、やりたいと思ったときに、思いやりが生まれると思います。
(女性 社会人 21歳)
- ◆高校生の皆さん、お疲れ様です。そして、このような活動に取り組んでいる姿と「高校生プロジェクト」の名前にとても感動しています。いろいろと大変でしょうけれど、大人になった時に「今のこの活動が生かされてくると思います。がんばれー(女性 パート 50代)
- ◆高校生プロジェクトの皆さんが東北の復興支援に行動されていることに心から感謝し応援したいと思います。自分のこと、家族のことなど狭い範囲の幸せを願いがちですが、地球のみんながひとつという認識を持てることは、大変幸せなことであり、素晴らしいことだと考えます。これからもどんどん進化されて下さい。(男性 61歳)
- ◆利己的な人間が増える昨今、このように高校生が休みの日を使って困っている人達を支援する取り組みは実に素晴らしいことです。優しい心をもちお互いに助け合っていく精神はなにもかえがたいものです。これからの岩見沢そして日本、世界に希望がひらけていくことを実感します。本日は暑さの中、高校生の皆さまお疲れさまです。(女性 54歳 市内)
- ◆皆さん一人一人の力が東北復興のみならず日本の力になります。今の気持ちを忘れることなく、これからの人生に生かしてください。貴方たちの取り組みは、間違いなく東北の人達に届きます。私は岩見沢の高校生たちを誇りに思います。(男性 53歳)
- ◆大人達は、ついつい時の流れに負けて、東北支援への気持ちをしまいこんで・・・ますね！若い皆さんの真心を感じる事で、反省し、日本、世界が、皆で幸せにならなければならないとの思いを新たに感じる事が出来ましたよ！(女性 主婦 58歳)
- ◆復興への協力も時とともに忘れていかれてしまうと思いますが、誰かがこえをだし続けるかぎり続いていくと思います。これからもこの活動を続けていって欲しいです。頑張ってください。
(女性 看護師 38歳)
- ◆高校生がこのようなことをボランティアでやっていることは大変良いことだと思います。若い時の経験がこれからの長い人生に大いに役立つと思います。この企画をやっている気持ちをこれから持ちつづけ充実した高校生活を過ごして下さい。これからの経験を願っています。(男性 無職)
- ◆皆さんの取り組みは素晴らしいことだと思います。まだまだ震災の大きな爪あとが残っていることを忘れないでということをもっともっと市民道民の方々にアピールする必要があることにいち早く気づかれた皆さんの取り組みがこれからも続いていかれるように願っています。三年生のみなさんも卒業されてからも今の気持ちを忘れずにいてください。皆さん取り組みは本当に素晴らしいのひとつことです。(男性 社会福祉協議会職員 48歳)

第2回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト 高校生アンケート（抜粋）

〈準備〉

○総務グループ

- ◆電話対応など、色々な経験できて良かったです。 ◆工夫をしていて良かった。
- ◆商品がはやめにきまったこと。商品の売れ行きがよかった。 ◆みんなで協力したこと。
- ◆はじめてだったのであまりわからなかったけど、率先してがんばった。
- ◆（反省点）コルクボードのバランス（使い道は良かったと思う）

○広報グループ

- ◆プロジェクトの冊子を協力して作り終えたこと。 ◆去年の反省点をいかせた。（少しでも）
- ◆去年の反省をいかして準備することができた。 ◆看板づくり。アンケート Box つくったこと。
- ◆パンフレットの字を書くのを頑張った。
- ◆（反省点）もうちょっと、宣伝するべきだった。 ◆（反省点）雨に不対応だったこと。

○宣伝グループ

- ◆しっかり説明をして散らしを配ることができてうけとってくれる人いてよかった
- ◆商品のことについて詳しく説明できるようにしたい。 ◆チラシをうまくつくれた
- ◆チラシを心よくうけとってくれて嬉しかった。
- ◆初めてのことでわからないことが多かったけれど楽しくできてよかった。
- ◆こうして4校が協力してこのプロジェクトをできたことが良かったです。
- ◆積極的に声をかけた。 ◆他校の人とコミュニケーションがとれた。

○商品説明グループ

- ◆他校生徒と仕事ができてよかった。 ◆ラミネートをかけるのが楽しかった。
- ◆すごく人が来てくれた。 ◆（反省点）会議にあまりでれなかったことです。

○ディスプレイグループ

- ◆ディスプレイがうまくいったこと。 ◆東北の復興商品などについて知れた。
- ◆前回より仕事がスムーズに進んだこと。 ◆他校との交流をとれたので良かった。
- ◆ディスプレイを一から考えていくのが大変でした。 ◆うまく物事が進まないときあったこと。
- ◆だらだら準備をしてしまった。 ◆（反省点）他のグループとの連携がうまくいかなかったこと。

○東北の今グループ

- ◆みんなで協力しながら準備したこと。 ◆東北の人達に少しでも協力できたと思う。
- ◆自分のできることをできた。 ◆昨年より仕事に専念できた。 ◆東北の人と少し話げできた。
- ◆しっかりもらえてくれる人がいた。 ◆東北の今を実際に写真で見えて感じたのでよかった。
- ◆時間が少ない。 ◆完成するのに時間がかかった。 ◆あまり準備に参加できなかった。

〈当日〉

○販売

- ◆他校のみんなと協力してできてよかった。 ◆ディスプレイをキレイにできた。
- ◆他校の生徒が会計の時に手伝ってくれた。 ◆準備がスムーズにいった展示を手伝ったこと。
- ◆効率よく準備ができた。 ◆計算が早くできなかった。商品をわたすのに時間がかかった。
- ◆レジの人が売れた商品や出してほしい商品を言ってくれたので仕事がしやすかった。
- ◆商品をたくさんの方に買ってもらえて良かった。 ◆お客様がたくさん来てくれた（雨の中）

- ◆商品を気に入ったお客さんが何回もきてくれたこと。 ◆買う人の笑顔がみれた。◆買ってくれた人の感想が聞けたこと。 ◆お客様に声をかけて売るのが大変だった。
- ◆たくさんのお客さんに、ありがとうと言ってもらえたこと。
- ◆お客さんと直接会話する機会があったので楽しかった。
- ◆（反省点）お客さんに「美味しかった？」ときかれても、実際食べていないのでわからないこと。

○展示（メッセージ）

- ◆たくさんの方々にメッセージを書いていただいた。 ◆笑顔で書いてくれた。
- ◆色々な方にメッセージを書いて頂けたので良かったと思います。
- ◆買っていただいた方の笑顔が見れてうれしかったです。
- ◆意外とたくさんの方がメッセージを書いてくれた。

○宣伝

- ◆しっかり説明をして散らしを配ることができてうけとってくれる人いてよかった
- ◆商品のことについて詳しく説明できるようにしたい。 ◆しっかりもらえてくれる人がいた。
- ◆ころよくうけとってもらった。 ◆多くの人にくばることができた。
- ◆チラシくばった時がんばってって言われた。 ◆人が少なく、チラシ配りが困った。

○総務（統括）

- ◆雨にも負けず、みんなで頑張れた。 ◆たくさんの方が来てくれた。 ◆沢山売れた。

○このプロジェクトの感想、または、復興支援について思ったこと

- ◆毎年、このプロジェクトをやることによって、東北の支援にも、もちろんなるし岩見沢の人たちにも、東北大震災を思い出してもらおう、よい機会になると思う。また、他人の人とも関わりがもてるのもよいことだと思う。 ◆復興支援を楽しくできるのでとても良いと思った。
- ◆けっこう、お客さんが来てくれたので良かったなと思いました。
- ◆2回目なので、昨日より工夫しながらできてとても楽しかったです。
- ◆この活動を通して、少しでも復興する力と東北の方の笑顔のもとになってくれればうれしいなと思いました。 ◆このプロジェクトは、このままずっと、続けていくこと！
- ◆このプロジェクトに参加してみて、今でも東北のことを少しでも思っていることが大事なんだと思いました。 ◆来年度もぜひ！！ ◆色々な経験ができたので良かったと思います。
- ◆すごくいいプロジェクトだと思いました。 ◆この活動はすごくいいと思う。また来年もしたい。
- ◆来年もやりたい。もっとたくさんの人に知ってほしい。◆準備期間から、当日まで関わることができ、よかった。 ◆復興支援についてとても良いことだと思った。また、やりたいと思いました。
- ◆最初は自分が何をすれば良いのか良くわからなかったけど、だんだん出来ることを見つけられて良かったです。 ◆2回目の高校生プロジェクトができて良かったし、たのしかったです。
- ◆まだ復興までは道のりが長いことを知った。少しでもプロジェクトになれば光栄だ。
- ◆たくさんのが高校生が参加し、協力し合ってたところが良かった。

○第3回のプロジェクト実施に向けた改善点、新しい取り組みの提案

- ◆時間をしっかり決め間のびしないように短期間作業をすべきだと思った。
- ◆今年は去年よりもすごく良く進んだ気がします。なのでこの取り組みを来年にできるだけつなげてより新しいことをどんどん取り入れていったらよいと思います。
- ◆もっと前から呼びかける。 ◆もっと宣伝をしたい。 ◆チラシの工夫が必要だと感じた。
- ◆もう少し、宣伝をしたら良かったと思いました。

報告書の内容に関するお問い合わせ先

**社会福祉法人
岩見沢市社会福祉協議会**

**〒068-0031
北海道岩見沢市11条西3丁目1番地9
岩見沢広域総合福祉センター内**

TEL 0126-22-2960

FAX 0126-24-4977

(平成26年1月発行)